

主事会報

発行
飯田市公民館
Dブロック
主事会

公民館・地域自治のあり様を問い直す自治体間共同研究

「解体新書塾」飯田研究会開催される

十月十八日(土)から二十日(月)の三日間、初開催となる「解体新書塾 飯田研究会」が、天龍峡温泉交流館を会場に行われ、飯田市をはじめ、共同開催自治体である兵庫県尼崎市、長野県松本市ほか、多くの自治体職員が参加して地域づくりについて熟議を行った。

初めての開催

「解体新書塾」飯田研究会

飯田市公民館 副館長 木下巨一

「今回の研究会の特長は、他地域が注目するような好事例を、当事者の心に深く刻まれている意味のある具体的なエピソードとして直接耳にしたこと、そして、それらの「新鮮な素材」を研究者の方がその場で「調理」し、一般化を試みたところにあるのではないでしょう



飯田型の公民館・地域自治について考察・検証しつづけた三日間

か。このライブ感に富んだ過程を直接目にすることで、単なる視察や講演会では得られない深い理解につながったように思います。」(駒ヶ根市から特別参加した赤穂公民館主事の塩澤真洋さんの感想から)

十月十八日(土)から二十日(月)にかけて天龍峡温泉交流館を会場に、兵庫県尼崎市、松本市、飯田市の自治体職員や社会教育、地方財政に関わる研究者の皆さんなど六十八人の参加のもと、「解体新書塾」公民館・地域自治のあり様を問い直す自治体間共同研究「飯田研究会」を開催した。

「このライブ感に富んだ過程を直接目にすることで、単なる視察や講演会では得られない深い理解につながったように思います。」(駒ヶ根市から特別参加した赤穂公民館主事の塩澤真洋さんの感想から)

最初の二日間は現役の公民館主事や公民館主事経験のOB、専門委員の経験を持つ市職員、公民館以外の現場で活躍する職員などカテゴリーごとに延べ十四人を対象にした公開のグループインタビューと、公民館活動家として公民館主事たちと長い付き合いのある

ある四人の住民へのインタビューを行い、最終日には研究者から二日間を振り返り、専門家の見地から言語化をしていただいた。合間には伊藤学司教育長、解体新書塾の名付け親でひさかた風土舎代表の長谷部三弘さん、公民館主事の元大先輩で元高野町副町長を務められた高橋寛治さんらのミニ講演も行われた。

冒頭の塩澤さんの感想に代表されるように、参加者一人ひとり、大いに胸に落ちる内容となったようで、今後の研究会の深化や自治体ネットワークの広がりにも期待したい。

見えてきた答えと新たな疑問

ESD推進のための公民館・CLC国際会議に参加して

上郷公民館 片岡博昭

岡山市で十月九日から開かれた「ESD推進のための公民館・CLC国際会議」に参加してきました。主事として考えの浅さを感じていたので、何か刺激が欲しいと思って参加した次第です。岡山駅周辺では、麗しい女性の多さに小島(一)主事、林主事とともに感嘆の声を上げてきました。

会場で世界各国の事例が発表されました。国も違えば当然抱える課題も異なるわけ

を目的にしているわけでもありません。今の日本では生活

を豊かにするというイメージの公民館活動ですが、国によって捉え方が違うことが窺えました。

会議を通して考えることで、なぜ公民館活動があるのか。これに暫定的な答えが見つかりました。それは結果的に持続可能な地域に繋がっているからだと思えました。



ESD(持続可能な開発のための教育)とKominkanの関係は

課題を特定し、その解決に向けて行動し、福祉の増進に繋がる。これが公民館活動の流れです。そして、この流れそのものが持続可能な地域づくりなのだと感じることがで

た部分を質問された。内容は解体新書塾記録を参照。インタビューに答えながら、登壇した主事それぞれが、立ち位置や地区への入り方について、手法は違えど、地域との対話から考え、導き出していることは共通していると感じた。実際に質問に対しても「右に同じ」の様なことが多かったのもその表れだと思ふ。前段の高橋さんのお話でも、パソコン上には答えはないとの言葉があった。先輩方も同じ様に現場に向き、語り合い、議論をしながら進められてきたのだと思う。

OB主事に聞くのでは、久々に「実践なくしてモノをいうな。」という言葉が聞いた。以前の職場で聞いた時より、今、公民館主事の立場で聞くと深く心に問いかける言葉である。

この解体新書塾をきっかけに、二十人の主事が思いをぶつけながら意識の共有を図れる主事会にしていきたいと思う。

「智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」草枕の冒頭の一節である。やらねばならぬことは沢山あれど、立場が違えば理解は得難い。理解されなければ確執が生じる。確執が生じれば益々住みにくい。いつの時代も悩みは同じなのだろう。皆、忙しいのである。

▼忙しさは「心」を「こくす」と書く。そんな心理状態から、果たして新たな発想や展開が生まれるだろうか? 日常に追われて忙しい気になつてはいけないうら。日々淡々とこなす業務から一寸浮いたような感覚を持つ時間。きつとその中にこそ、公民館の神様はいるのだ。

▼主事には月一回、地区での業務を離れて集まることを許された時間がある。そこでは持てる知識や経験を総動員して大いに考えを交わし、想いを語り、納得するまで意地を通せばいい。それができる環境や仲間の存在の、なんと尊いことだろう。そんなことを思いながら、周囲のせわしなさを横目にまた次の世間話相手を探している。



自身の思いや経験を語り、参加者と共有

つたつたつた

▼師走に入り、どこかせわしない日々が続いている。自分が、というより世の中の雰囲気

がせわしない。皆忙しそうに顔をしている。窓口に来た地区のおじさんも同じことを言うもんだから、それなら「こぐら」は気楽にと、公民館の薪ストーブにあたりながら世間話に花を咲かせた。この世間話の宝の宝庫なのはこの世間話がないが、果たしてパソコン越しの視線にはどう映っているのか。

第六十二回長野県公民館大会

県公民館 内山 秀治



第62回長野県公民館大会

九月二十五、二十六日の二日間、飯山市で開催された第六十二回長野県公民館大会へ参加しました。「学習と暮らし、地域と結び」を大切にしよう」を大会テーマに講演会と分科会が行われました。開会式の中で県教育委員より信州型コミュニケーションスクールについての説明がありました。

「学校と地域が願いを共有し一体となって子どもを育てる持続可能な仕組みを持った地域と共にある学校を目指す。」という方針のもと、県内の小中学校(周知を)図るといった説明がありました。この制度を紹介した。この制度を介して両者の願いが共有でき共に行う良い機会になればと感じました。

講演会は中央学院大

学の白水教授から「これまでがあつて、これからがある」をテーマにお話しいただきました。印象的な言葉は、「主催者側になり初めて学べる(学ぶ姿勢ができる)」という言葉でした。言われたことをやるのではなく、自ら考え、意思を持ち活動することで初めて学びの姿勢がでけるとい内容でした。地域

十一月主事会研修

伊賀良公民館 小島 徹

十一月十八日(火)に行われた定例主事会に、和歌山県田辺市公民館主事の六名の皆様ははるばる片道五時間程かけてお越しになりました。飯田には五月に続き二回目の来飯で、今回は「主事力を高めるにはどうしたらいいのか?」をテーマに据え、定例主事会を

視察したいとのことでした。内心「待て待て...それはこちらが教えてもらいたいところだぞ...」と感じましたが、せつかくならこちらも何か得るものはないかと考え、地域性による違いはあるにせよ、共通する部分は多いだろうと「学社融合」を題材に意見交換することになりました。

十月主事会研修 若者の地域参加を考える

三穂公民館 下平 一博

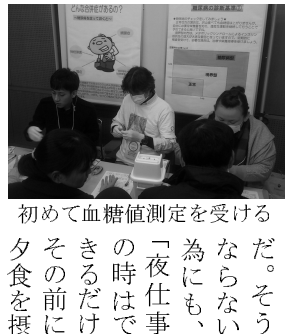
十月の主事会研修は、「若者がどのように「地域」を捉えているか、上村の取り組みから考える。」をテーマに上村公民館の村澤勝弘主事からの事例発表と、グループに分かれて意見交換を行った。

「誰かがやってくれる」という受け身から、「自分たちで動き、考える」という積極的な姿勢の下で住民アンケートを実施、そのまとめを生かしながら、今後はまちづくり委員会への提言や公民館での学習会など、幅広い年代の地域住民への働きかけを行なおうとしている、とのことであった。

意見交換では、地区で若者の声を聞く機会、公民館から若者へのアプローチの仕方、公民館の役割、公民館主事として意識すること、などについて話し合い「公民館の事業や講座

公民館主事の健康診断

「公民館主事になってから太った...」という話をよく聞く。夜の会議後の食事や、今の時期は忘年会など、不規則、不摂生な生活が多い公民館主事にとって、健康管理は課題の一つだろう。そこで、専門家に健康についてのお話を伺った。



初めて血糖値測定を受ける

下久堅公民館 野牧 和博
運動会が終わった後、きつと...と思つていたけど、十一月は意外と行事が続き、気がつけば、新公民館への引っ越しが大詰め。他の主事はこんな生活が続けて、よく燃え尽きないかと、疲れの抜けない事に悩むオールドルーキーは、主事会旅行という大義名分を得て、江戸に行つてきました。

今年もあつたか... 行ってきました 主事会忘年旅行!!



恒例?余興での一コマ (Aブロック)

一日目は昼食で埼玉県日高市のサイボクハムの豚しゃぶに舌鼓を打ち、その後川越市へ移動し、蔵造りの街並みを見学しました。夜は浅草の居酒屋にて海鮮鍋を堪能しつつ、主事たちによる余興も行われ、お店に迷惑が掛からない範囲で大いに盛り上がりました。その後、私も含め主事たちは東京の夜の街に消えていきま

橋北公民館 横山 功基

去る十一月二十八日、二十九日と、主事会忘年旅行で埼玉と東京を訪れました。

歴史的な建造物が多く残る橋北地区の主事の私にとって、川越市の蔵造りの街並みを見学できたことはとても有意義なものになりました。



田辺市の発表に聞き入る公民館主事たち

この研修を通じて感じたことは、もっと他地域を知ることで、自地域を見つめ直す機会を作った方がよいのではないかと。四月から一回も他地域の主事と話す機会がなかった主事も相当数いると思います。毎日の業務に追われ、どうしても閉じてしまいがちな殻を破り、飯田の強み・弱みを把握し、その上で公民館主事をやっていると、田辺市への視察からかな?!

「誰かがやってくれる」という受け身から、「自分たちで動き、考える」という積極的な姿勢の下で住民アンケートを実施、そのまとめを生かしながら、今後はまちづくり委員会への提言や公民館での学習会など、幅広い年代の地域住民への働きかけを行なおうとしている、とのことであった。

「公民館主事になってから太った...」という話をよく聞く。夜の会議後の食事や、今の時期は忘年会など、不規則、不摂生な生活が多い公民館主事にとって、健康管理は課題の一つだろう。そこで、専門家に健康についてのお話を伺った。